



2023年2月8日

各位

会社名 株式会社中村超硬
代表者名 代表取締役社長 井上 誠
(コード：6166 東証グロース市場)
問合せ先 取締役管理本部長 藤井 秀亮
(TEL. 072-274-1072)

2023年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の状況を踏まえ、2022年5月13日に開示いたしました2023年3月期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2023年3月期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,700	240	230	50	4.54
今回修正予想 (B)	3,300	15	40	△150	△13.61
増減額 (B - A)	△400	△225	△190	△200	
増減率 (%)	△10.8	△93.8	△82.6	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	4,038	311	338	△257	△23.97

2. 修正の理由

売上高につきましては、世界的な半導体不足や中国経済の停滞の影響を受け、各セグメントとも厳しい受注環境が継続しており、下期において見込んでいた、特殊精密機器事業における受注・販売の回復や、電子材料スライス周辺事業における新規案件の受注が遅れているため、前回公表した数値を下回り3,300百万円となる見込みとなりました。また、損益面についても、売上高の減少に加え、原材料価格やエネルギーコストの高騰等により、前回公表した金額を下回り、営業利益は15百万円、経常利益は40百万円、親会社株主に帰属する当期純損失については150百万円となる見通しであります。

2023年3月期通期連結業績予想における各セグメントの売上高の内訳は以下のとおりです。

	前回発表 予想数値	今回発表 予想数値
特殊精密機器事業	950 百万円	800 百万円
化学繊維用紡糸ノズル事業	2,400 百万円	2,225 百万円
電子材料スライス周辺事業	250 百万円	200 百万円
マテリアルサイエンス事業	100 百万円	75 百万円
計	3,700 百万円	3,300 百万円

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業においては、工作機械向け耐摩工具関連分野、産業機械向け実装機用ノズル分野ともに、世界的な半導体不足や中国経済の停滞の影響により厳しい受注環境が継続しており、下期において見込んでいた、工作機械向け耐摩工具の受注・販売の回復が、想定以上に遅れているため、当期売上高は800百万円を見込んでおります。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

風力発電用ブレード向け炭素繊維用紡糸ノズルの売上の伸長に加え、不織布製造装置案件が検収されるなど堅調に推移いたしました。しかし、昨年末までのゼロコロナ政策の継続により、中国化学繊維メーカーの稼働率が低下し、既存の化学繊維用紡糸ノズルの受注・販売が減少しており、当期売上高は2,225百万円を見込んでおります。

③ 電子材料スライス周辺事業

当社の半導体向けダイヤモンドワイヤ販売事業においては、当社製ダイヤモンドワイヤを正式採用する企業は引き続き増加しており、販売数量は着実に増加しております。しかし、新型ダイヤモンドワイヤ製造装置（PHX-01）の販売において、下期に契約対価の一部の収益計上を見込んでいた案件が、エンドユーザーの固定砥粒化の遅れにより来期に先送りとなったため、当期売上高は200百万円を見込んでおります。

④ マテリアルサイエンス事業

ナノサイズゼオライトについては、サンプル提供している企業において正式採用に向けた開発は進んでいるものの、正式採用には至っておらず、当期売上高は75百万円を見込んでおります。

なお、損益面については、上記修正理由の影響を受け減益となり、営業利益15百万円・経常利益40百万円となる見通しであります。当期純利益については、中国の江蘇三超社に対する仲裁案件に関する訴訟関連費用を特別損失として計上するため、損失計上となる見通しであります。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以 上